

歯科の新病名として口腔機能低下症、口腔機能発達不全症が候補にあがっているらしい。高齢者の口腔機能低下は口腔の不潔をまねき、嚙み砕いたり、飲み込む力を低下させ誤嚥性肺炎や低栄養の引き金となる。老年歯学会では7項目(口腔不潔、口腔乾燥、咬合力低下、舌口唇運動機能低下、低舌圧、咀嚼機能低下、嚥下機能低下)を、診断に必要な症状として考え、そのうち3項目を満たした場合「口腔機能発達不全症」と診断することを提案している。『誤嚥性肺炎予防には口腔ケア』がすっかり常識となったように、今後、健康長寿達成には口腔

機能低下予防だと、社会にしっかり定着して欲しいと思う。

一方、口腔機能発達不全症は、対極の発達期の子ども食の問題。撰

しかし昨今、障害はないが、食べ方が気になる子は増加している。お母さんたちの困りごとは様々で、よくお母さんたちが口にするのは「食べ

のに時間がかかる、偏食、むら食い、遊び食べ、食事よりも甘い飲み物やお菓子を欲しがる、少食、をあげている。飽食の時代だからこそ、何をどのように食べさせたらいいのか困ってしまうのかもしれない。しかしこれらの困りごと全てに共通する解決策は、食事時間を空腹で迎えられるようにすること。それには生活リズムを整えることが重要であると思う。保護者が求めているのは育児についてのサポートであり、そこに食の問題の一端を担う歯科医療関係者がどこまで関われるのかが今後の課題である。

## 論壇

### 口腔機能低下症と 口腔機能発達不全症に思うこと

茨城県保険医協会 副会長 高木 伸子

食に関して現在唯一ある病名は「摂食機能障害」である。何らかの原因で摂食機能不全の場合に摂食機能療法を行ったときの病名である。

てくれない」だ。平成27年度乳幼児栄養調査によると、子どもの食事で困っていることは何ですかの質問に対して多くの保護者が、食べる